

## 災害体験 避難時の行動は

三井住友海上秋田 教育コンテンツ開発

三井住友海上火災保険秋田支店（秋田市）は15、16の両日、自社が開発した体験型防災教育コンテンツ「HIRAQ（ヒラク）」を活用した防災教室を同市の金足農業高校で開いた。1年生約170人が参加し、災害時に取るべき行動を考えた。

ヒラクは、用意された被災シナリオを体験しながら、ヒントを基に参加者と議論を交わしてどう対処するかを考えるコンテンツ。今年3月から提供を開始し、中学校や高校での出張授業などで活用して

### 金足農高で防災教室

いる。生徒らは、下校時に雨が強まったため一時避難先の集会所に避難するシナリオを体験。食料の確保や配分、家族らとの安否確認を取る方法について話し合った。

食料の確保と配分では、避難者が持ってきた食料や避難場所に備えてある食料に何が あるかを確認。その後、アレルギーや健康状態に配慮して子どもや高齢者、妊婦などどの食料を配分するかを決めた。長期間保存が利く食料は残すという意見も出た。



避難場所での行動について話し合った防災教室

安否確認では、「携帯電話を持っていない人に自分の携帯を貸す」「SNS（交流サイト）を利用して家族に連絡を取る」といった意見が出された。

造園緑地科の石塚大地さんは「実際に災害が起きたときは、防災セットなどを持っていない場合がある。避難場所にはいろんな人が来るため、

考え直すきっかけになった」と話した。

三井住友海上火災保険秋田支店の山口修平さん（36）は「災害発生時の行動を考える機会はありません。自分で考えることで地域の防災力向上にもつながるため、日常的に考えてもらいたい」と語った。

（板橋美羽）

©秋田魁新報社